

第 1 号議案

Ⅲ. 2017 年度事業計画

I. 暮らしと産業に関する講演会・研究会・シンポジウムの開催

1. 講演会の開催

この事業は生起する社会経済問題について行政、企業、国民・生活者相互間で理解を深め合うことを目的とするものである。

テーマについては変転する内外情勢を見極め時宜に適したものとする。

○2017 年度社員総会記念講演会

日 時 2017 年 5 月 18 日（木） 16：40 ～ 17：40

場 所 KKR HOTEL TOKYO

テーマ 「IoT」時代の到来と産業経済の展望（仮題）

講 師 井上 博雄 氏

[経済産業省 経済産業政策局 産業再生課長]

○第 22 回暮らしと産業に関する関西講演会

日 時 2017 年 10 月 18 日（水）

場 所

テーマ 「大阪万博」について

講 師

2. CSR活動の普及について

CSR活動の意義と重要性

現代の世界における市場経済社会は多様な価値観の下にある。

企業（会社）の考え方については現代社会では大別して二つの流れがある。

その一つは資本（株主）を中心に利益追求を求める立場で、株主資本主義とも呼ばれている。

その特徴はおおよそ次の点にある。

- ・私的資本の利益至上主義は成果、効率重視優先。そのため人件費をはじめコスト削減となる。
- ・過度な競争を煽り、企業内部にあっては劣悪な労働条件を強行し、対外的には弱肉強食の格差社会が拡大する。
- ・市場開拓のため「規制緩和」を求め「官から民へ」にみられるように公共性、公益性の高い分野にまで利益至上が追求される。
- ・競争至上主義は量的（価格）競争が中心となり質的（製品、商品、サービスの安全性、耐久性、信頼性）競争は軽視される。
- ・金融資本主義の段階に至ると、政治と深く結びつき、政治腐敗を助長し、政府の政策を左右する。

以上の立場からはCSRという発想は出て来ないと言える。

もう一つの考え方は企業とは資本だけでなく、労働者、取引先、お客様、地域社会などステークホルダーを含めた組織とし、社会のために存在するとする立場である。

この立場の特徴は次の通り。

- ・企業が一時的に潤うのではなく持続的に発展するため、そして当該企業だけでなく多くの企業、国民、生活者が共存しようとする発想。
- ・現代の市場経済社会の歪み（不公正な競争、格差、人権、労働、環境等）を企業が強制されることなく自主的に企業倫理を高めることにより是正し、健全な市場経済社会を構築するもの。

具体的な取組むべき課題

CSR活動は時代の変遷により、或は業種、業態により取組むべき課題や重点は異ってくる。以下各種事業に共通する今日的課題について取り上げてみたい。

- ・法令の遵守（コンプライアンス）
- ・雇用責任を全うする
- ・取引先との公正な契約の締結と契約の完全履行
- ・国民、生活者（消費者）との対話（トウーウェイコミュニケーション）の実施
- ・国民、生活者（消費者）のニーズに基づく生産、供給、サービスの提供
- ・顧客満足度の達成
- ・環境重視（身近なことから地球規模に広がる問題）と環境問題への取組み
- ・能率的な経営と適正な原価、適正な利潤を目指す
- ・社会への貢献活動
- ・政治腐敗に加担しない
- ・内外社会から信頼される事業の継続発展に尽す

CSR活動普及事業について

（1）国内における事業

- ①CSR活動交流会（業際間交流）
- ②「CSR活動実例集」（2017年版）の発刊

（2）海外への普及活動（別項・国際交流）

3. 2017年度都市と交通問題研究会の継続案

- 最近の自動車行政を取り巻く課題 [4月14日於：ホテルサンライト新宿
講師 谷口 礼史 氏
【国土交通省自動車局総務課企画室長】]
 - 2020年東京オリンピック、パラリンピック大会に向けた交通対策
 - 空港アクセスの改善策
 - 「ライドシェア」の動向と課題
 - 交通機関の環境対策 [6月7日 於：ホテルサンライト新宿
講師 軸丸 真二 氏
【国土交通省総合政策局環境政策課地球環境政策室長】]
 - 改良すべき踏切対策
 - 観光バス混雑緩和対策
 - 公共交通機関内での乗客のマナー問題 （交流会） [7月3日(月)]
 - 「自動運転」時代の展望と課題
 - 自転車の氾濫と交通安全・渋滞対策 （交流会）
 - 現地視察
 - ・公共交通機関（バス、鉄道等）の活用（文化観光めぐり）
 - ・安全性の向上「ホームドアの改善」 [5月22日(月) 東京メトロ訪問
集合時間：15時
集合場所：東京メトロ本社
視察時間：15:00～16:30
視察箇所：銀座線 上野、浅草、九段下]
 - ・路面電車の導入（葛飾区）
 - ・「横田基地」
- その他時宜に適したテーマを設定する

4. 2017年度「エネルギー・環境対策事業」企画（案）

1. 「エネルギー・環境セミナー」の継続

本事業は当センター創立以来推進されてきた。2016年度末で194回の実績をもつ。国際情勢としては2015年12月のCOP21「パリ協定」の実現は米国の離脱の動きもあり厳しい状況下にある。

一方、国内では戦後70年の中で2016年に初めて電力の全面的自由化が実施され、本年はガス事業の自由化も行われる。

また、エネルギー（原油を中心）価格は流動的な状況が予測される。

こうした情勢の中で次のテーマを設定したい。

○ エネルギー政策の重要課題

○ エネルギー資源の確保と価格動向

○ 電力自由化の進捗状況と課題

5月31日(水) 於：ホテルサンライト新宿 講師 小川 要 氏 [資源エネルギー庁 電力ガス事業部 電力市場整備室 室長]
--

○ ガス事業の自由化、展望と課題

○ 「新エネルギー」の開発状況

○ 米国のエネルギー政策と地球環境対策

6月21日(水) 於：KKR 講師 松野 大輔 氏 [資源エネルギー庁 長官官房 戦略企画室長]

その他時宜に応じたテーマを設定する

2 現地視察

四国電力伊方原子力発電所（5月）

Ⅱ. くらしと産業に関する交流会、情報収集活動

施設・工場視察、業際間交流会

当センターでは、「企業と国民・生活者が相互に理解を深めるために、生産者は消費者の立場を、消費者は生産の原点を正しくとらえることが肝要である」との考えから、標記「視察、交流会」を実施してきた。これまで多数の方々にご参加いただき、好評のうちに回を重ねてきた。

第 67 回施設・工場視察、業際間交流会の実施企画

1. テーマ

四国地方におけるエネルギー事情並びに地域活性に関する視察

2. 日 程

集合時間 PM12:00

集合場所 松山空港 1階到着ロビー

第1日 (2017年5月24日 (水))

伊方原子力発電所再稼働後の状況視察

宿泊：松山 (東京第一ホテル松山)

第2日 (5月25日 (木))

高松港 ～ 直島港

ベネッセミュージアム、地中美術館、家プロジェクト (南寺) 視察

宿泊：高松市 エルスステージ川六

第3日 (5月26日 (金))

高松市、勇心酒造

栗林公園

3. 視察箇所概要

①「伊方原子力発電所」＜愛媛県伊方町＞

○定格電気出力は2号機56万6千kW、3号機89万kW。

○3号機は、平成23年4月に定期検査入りして以降、5年以上の歳月をかけ、安全性の向上に取り組んできた結果、国の新規制基準への適合性審査などを終了し、平成28年9月より通常運転を再開した。

○なお、1号機は平成28年5月10日に運転終了。2号機は定期検査中。

②「直島」＜香川県直島町＞

○瀬戸内海に浮かぶ、香川県の小島。

かつては三菱マテリアルの企業城下町として発展してきたが、1970年代の金属製錬事業そのものの低迷により合理化が進んだため、島の人口は減少し続けていた。こうした状況の中、90年代前半から島全体を舞台にした「ベネッセアートサイト直島」というプロジェクトが行われ、様々な現代アートを楽

しめる島として有名となり、国内のみならず世界中から観光客が集まっている。直島の取組を瀬戸内に広げ展開するアートプロジェクトが香川県主催により 2010 年から 3 年おきに「瀬戸内国際芸術祭」として開催されており、2016 年開催分では、百万人が来場した。

○見学先

・ベネッセミュージアム

直島文化村プロジェクト・ベネッセアートサイト直島の中核であり、美術館とホテルが一体となった施設。

「自然・建築・アートの共生」をコンセプトとして設計されており、コンデナスト社が発行する旅行誌『コンデナスト・トラベラー』の次に見るべき世界の七か所特集で取り上げられたことをきっかけに、世界各地の新聞や雑誌で紹介されており海外での注目度も高い。

・地中美術館

瀬戸内の美しい景観を損なわないよう建物の大半を地中に埋設した美術館。クロード・モネ、ジェームズ・タレル、ウォルター・デ・マリアの作品が、安藤忠雄設計の建物に恒久設置されている。

・家プロジェクト

古い家屋を改修し、アーティストが家の空間そのものを作品化するアートプロジェクト。今日も生活が営まれている場に、歴史や地域の文化と現代アートが織りなす空間が作りだされている。

③「勇心酒造」＜香川県綾川町＞

○ 安政元年（1854 年）創業の造り酒屋だが、日本酒の発酵醸造技術を生かしたコメの総合利用研究に着手し、アトピー性皮膚炎の発症予防効果がある「ライスパワーエキス」などを開発することにより、化粧品を中心に次々と商品化するバイオ企業に変身した。

○ 現在は、バイオ技術の成果を再び酒造りに応用し、日本初の低アルコール日本酒等を開発している。

なお、酒造りは地元農家と連携した地域活性化の取り組みでもあり、使用する古代米は、宇多津町と古代米生産組合が町おこしの一環で栽培している醸造用のコメである。

④「栗林公園」＜香川県高松市＞

○ 国の特別名勝に指定されている日本庭園。『ミシュラン観光ガイド』に「わざわざ訪れる価値のある場所」として最高評価 3 つ星に選定された。また、アメリカの庭園専門誌『ジャーナル・オブ・ジャパニーズ・ガーデニング』の「2011 年日本庭園ランキング」でも、足立美術館（島根県）、桂離宮（京都府）に続く 3 位を獲得している。

第 68 回施設・工場視察、業際間交流会

1. テーマ 「関西のくらしと産業について、その歴史と文化とともに学ぶ」

2. 日時 平成29年10月19日（木）～20日（金）

3. 行程

一日目 10:00 京都駅集合 バスにて移動

10:30 関西電力（株）蹴上発電所 視察

（みどころ・ポイント）

蹴上（けあげ）発電所は、琵琶湖疏水で得られる水力の有効活用の目的で建設され、明治24年（1891年）6月に発電機2台で運転を開始しました。情緒あふれるレンガ造りの発電所から生まれる電気は京都の街へと送られ、明治28年（1895年）には、塩小路（現在の京都駅）～伏見駅へ走る日本初の市街電気鉄道（京都市電）の開通に大きく貢献しました。京都の近代化に大きく貢献した蹴上発電所は、1942（昭和17）年に京都市から関西電力の前身・関西配電に引き継がれ、開業から100年以上を経た今でも京都の街へ電気を送り続けています。2016年9月12日に米電気電子学会（IEEE）から技術分野の歴史的な業績をたたえる「IEEEマイルストーン」に認定されました。

11:30 琵琶湖疎水記念館

（みどころ・ポイント）

京都は平安京以来千年の間、我が国の首都として栄えてきましたが、明治2年に東京へ都が移り、産業も急激に衰退し、人口も急減していきました。

この衰退していく京都を復興させるため、特に産業の振興を図ろうと計画されたのが疏水事業でした。

当時、我が国の重大な工事はすべて外国人技師の設計監督に委ねていた時代にあって、すべて日本人の手によって行った我が国最初の大土木事業であり、歴史的変遷に伴い利水の用途に変更があったものの、今日においても約147万市民の上水道の水源や水力発電の

ほか、多目的利用がなされています。

12:30 昼食と京都市内観光
歴史ある京都の仏閣、寺院をご見学。(平安神宮 等)

14:00 バスにて移動

14:50 サントリー山崎蒸留所 見学 約80分
(みどころ・ポイント)

2014年秋のNHK連続テレビ小説『マッサン』は、ニッカウキスキーの竹鶴政孝・リタ夫妻がモデルになったのは記憶に新しいところですが、サントリー山崎蒸留所は日本のウイスキーにこだわり開設された日本初の蒸溜所。山崎の名水で仕込んだ「シングルモルトウイスキー山崎」の製造工程の見学、ならびに試飲ができます。

17:30 大阪市内ホテル到着(中之島プラザ or ホテルNCB)

18:30 懇親会

二日目 8:45 出発 バスにて移動

10:00 大阪ガス 泉北製造所視察
(みどころ・ポイント)

泉北製造所はLNG(液化天然ガス)を原料に都市ガスを製造する大阪ガスの主力工場です。面積は第1・第2工場合わせて約100万㎡と世界でも有数の規模と最新鋭の設備を備えており大阪ガスの約70%のガスを製造しております。また、2009年度から運転している110万KWの発電量を持つ天然ガス発電所も併設しています。

製造所内にあるガス科学館は1982年に開設され、エネルギーや地球環境について学んだり、体感できるガスの総合科学館です。

12:30 あべのハルカスにて昼食と展望台
(みどころ・ポイント)

あべのハルカスは大阪市阿倍野区に立地する超高層ビルです。

2010年(平成22年)1月9日に着工され、2014年(平成26年)3月7日に全面開業しました。

高さ 300m という日本一の高さを誇る超高層ビルで、百貨店や飲食店、ホテルやオフィスが入り混じった複合商業施設となっており、大阪を代表する新しい観光スポットとして大人気です。

目玉は最上階にある展望台「ハルカス 300」。ここから一望できる大阪の街並みは圧巻で、夜はきれいな夜景が楽しめます。

14 : 30 通天閣など大阪市内観光

(みどころ・ポイント)

天に通じる楼閣という意味をもつ「通天閣」は、知人ぞ知る、浪速のシンボルタワーです。

展望台は360°のパノラマで、「ビリケン様」が鎮座していることでも知られています。

初代通天閣は、1912年（明治45年）。ルナパーク（遊園地）とともに、一大歓楽地「新世界」の目玉として誕生しました。デザインはパリのエッフェル塔と凱旋門を模し、当時64mという高さは東洋一を誇り、たちまち大阪のシンボルになりました。

しかし1943年火災にあい、鉄材供出の名のもとに解体、戦後（1956年）、市民の熱望により、現在の2代目通天閣が誕生しました。通天閣とともにその周辺の大阪らしいノスタルジックな雰囲気や、「こてこて」な感じをお楽しみ下さい。

17 : 00 新大阪駅にて解散

Ⅲ. 国際交流企画

1. ベトナム CSR 研修団の招聘について

(1) テーマ

ベトナム貿易大学との CSR に関する交流

(2) 経緯

わが国経済産業の展開は ASEAN 諸国等新興国の近代伴いインフラ整備はじめ、各種プラント整備・技術のパッケージによる諸国への協力が求められている。とりわけベトナムは、インドシナ半島最大の人口を有しており、かつ平均年齢の若さなどからも、今後の堅実な消費市場の拡大が期待されている。また、豊富な労働力とわが国との長い友好の歴史などから既に早い時期から日本企業の進出が進んでおり、中国やインドシナ半島各国と至近距離でのリンケージを有する地政学的メリットもあり、今後ますます日本企業の進出・投資の拡大が見込まれる有望な市場である。

これまでの経緯

- ・2013年 11月ベトナム中央経済管理研究所 (CIEM) 訪問 (9名)
- ・2014年 9月 CIEM CSR 研修のため来日 (招聘) (6名)
- ・2015年 7月 CIEM 主催による CSR 研修会 (ハノイ) に参加 (8名)
ハノイ大学、貿易大学訪問
- ・2016年 3月当センターと貿易大学との間で「相互交流協定」締結 (別紙)
- ・2016年 7月貿易大学教師学生 CSR 研修に来日 (事業報告書掲載) (9名)

以上の経過と実績のもとでこのたびベトナム貿易大学が日本企業に大きな関心を持ち、日本企業の CSR 活動を研修したい旨の要請を寄せられた。

当センターとしては2017年においてもその意義を尊重し、次のとおり研修企画を推進したい。

(3) 来日目的

ベトナム貿易大学教師並びに学生が日本企業の CSR 活動を研修するため

(4) メンバー (9名)

	名前	性別	生年	所属
教師	Dr. TRAN THI HIEN	女	1976	英語学部
	Dr. NGUYEN THI BICH HUE	女	1980	日本語学部
生徒	LE THI PHUONG	女	1996	日本語学部
	TO PHUONG LINH	女	1995	〃
	TRAN VAN ANH	女	1995	〃
	NGUYEN THUY LINH	女	1995	〃
	NGUYEN THI KIEU TRANG	女	1996	経営学部
	VU NGOC LINH	女	1998	〃
	HOANG HA LINH	女	1997	〃

(5) 来日日程

第1日 (7月18日 (火))

来日フライト 1 VN 384 HANHND HK7 0800 1505 羽田着 15時5分

午後來日 ホテルサンライト着 打ち合わせ 歓迎会

第2日 (7月19日 (水))

10:00 - 12:00, 昼食, 13:30 - 15:00, 15:30 - 17:00, 18:00~

講師 (日立製作所) (中部電力) (東京ガス) 夕食

第3日 (7月20日 (木))

9:30 - 11:30, 昼食, 13:00 - 14:00, -17:00, 18:00~

講師 (全日空) (本田技研 ロボット見学) (JR東日本 東京駅・新宿駅視察) 夕食・自由行動

第4日 (7月21日 (金))

自由行動 帰国

帰国フライト 2 VN 385 HNDHAN HK7 1635 1940 羽田発 16時35分

(6) 研修会場

ホテルサンライト新宿

(7) 費用

往復航空運賃：ベトナム負担

宿泊費 (3泊)、会場費、講師代 日本側負担

2. 「CSRに関する国際セミナー」への参加

1. 主催(共催)

ベトナム貿易大学

(一社) ぐらしのリサーチセンター (実質的には協力)

スポンサー

外国貿易大学、生命革命評議会

2. 開催日程

2017年9月14日

3. 会場 ベトナム貿易大学

4. 開催概要

(1) イベントタイトル「企業の社会的責任・産業と大学の連携」に関する国際会議

(2) 目的

全体的な目的：FTU-TCL(ライフ、イノベーション評議会)協力に関するアウトリーチ・イベント、ベトナムの大学における研究と訓練活動へのCSRの埋め込み。

特定の目的：

- ・企業におけるCSRに関する全体的な記述と最新情報、ステークホルダーの関与からの必要性と恩恵、そしてCSRに関する課題を提供する。
- ・高等教育機関における訓練及び研究活動、この活動の必要性、機会および挑戦、挑戦を克服するための提案へのCSR統合に関する全体的な記述及び最新情報を提供する。
- ・世界的なCSR研究動向の最新情報。
- ・CSRのトピックに関連する大学と企業の連携、この連携から生まれる機会と課題、挑戦の克服のための提案。
- ・TCL-FTUの協力を強化する。

(3) 参加者

CSRにコミットした企業、学会、その他のステークホルダーのリーダーとスタッフ期待される参加者ベトナムの外国企業を含む大学、研究機関、企業およびその他の機関からの50人の参加者と日本からの10人の参加者(ベトナム側の希望)。総会終了後参加者を選定する。

日本 一般社団法人くらしのResearchセンターとベトナム貿易大学との相互交流に関する協定

くらしのResearchセンターと貿易大学は企業の持続的発展と市場経済の健全な進展を構築するためには CSR (Corporate social responsibility : 企業の社会的責任) 活動が大切であることについて共通の認識を持つ。

これを将来において進展させるためには産学協同 (企業産業界と大学、学生との協同) の活動が意義あるものと認める。

以上の趣旨 (目的) を実現するために協定を締結する。

2016年 3月 28日

(A) 日本 一般社団法人くらしのResearchセンター

(B) ベトナム貿易大学

第1条

両締結者は日越間における互惠、平等の経済、文化の交流促進の一環として CSR に関する研修交流を時宜に応じて実施する。

第2条

A は B の求めに応じて日本企業の CSR 活動を紹介する。

第3条

A は B の CSR 研修による成果がベトナム学生の雇用関係促進にも資するよう努力する。

ベトナム外国貿易大学 (FTU—Foreign Trade University)

概 要

1. 設立 1960 年
2. 所在地 ハノイ、ホーチミン、ハロンにもキャンパスがある。
3. 特徴
 - ・ベトナムでは有名大学の一つ
 - ・入学試験の競争率は最も高い
 - ・学生はアクティブで社会的評価が高い
4. 学部
 - 外国貿易経済
 - ビジネス英語
 - 経営管理
 - 基本的な基礎経済学
 - 社会科学と人間学
5. 部門 (専門研修)
 - フランス語
 - 中国語
 - ロシア語
 - 日本語
6. 国際関係
 - FTU は、UNDP などの国際機関と関係がある。
 - JICA、青年海外協力隊 (日本) ; VIA、ELI、ALI、REI (USA) ; VVOB (ベルギー) ; WUSC (カナダ) ; OSB (オーストラリア)。 DANIDA (デンマーク) ; SIF (シンガポール)、... 主に学者と教師の交流を行っている。
7. 大学との国際交流
 - FTU は、ハワイ大学、リバーサイドのカリフォルニア州立大学、バッフアロー大学 (米国) などの多くの大学と関係がある。
 - 大阪国際大学、東京経済大学、神戸流通科学大学 (日本) ; 国際ビジネスと経済学の Beijing 大学 (中国)。
 - トゥール大学 (フランス) ; バンコク大学 (タイ)。 オールボー大学、コペンハーゲン・ビジネス・スクール (デンマーク) ; ケンブリッジ大学、バーミンガム大学 (英国)、などが挙げられる。

※Foreign Trade University ホームページより抜粋

IV. くらしと産業に関する出版事業

1. 定期刊行物の発行

(1) 「くらしのレポート」

時宜に応じたテーマを特集とする。当面隔月発刊とする。

2016年度から新企画として「企業と地域社会」（仮題）、「地域社会への貢献」、「ふるさと自慢紹介」を継続する。

(2) 「くらしのトレンド」（提言活動）

小誌は、くらしと産業をめぐる諸問題を中心に時宜に適したテーマについて提言するために発刊されてきた。2016年末で675号を重ねている。

今後とも内容を充実させ継続したい。

2. 不定期刊行物の発刊

(1) 「CSR 活動事例集」の実績

当センターは創立以来健全な市場経済社会を構築するため、企業の社会的責任に基づく事業活動を重視してきた。

CSR 活動の意義については前記に提案したとおりである。

○企業の社会貢献活動事例集（1993年8月20日刊）

小田急電鉄(株)、(株)資生堂、(株)東芝、(株)日本交通公社、(株)長谷工コーポレーション、(株)日立製作所、関西電力(株)、九州電力(株)、キリンビール(株)、四国電力(株)、住友生命保険相互会社、全日本空輸(株)、中国電力(株)、中部電力(株)、東京ガス(株)、東京電力(株)、東武鉄道(株)、東北電力(株)、トヨタ自動車(株)、日本航空(株)、日本石油(株)、日本電信電話(株)、北陸電力(株)、北海道電力(株)、三菱商事(株)、三菱電機(株)

○CS 活動事例集（1996年2月9日刊）

大阪ガス(株)、関西電力(株)、(株)資生堂、全日本空輸(株)、中部電力(株)、東京ガス(株)、東京電力(株)、(株)東芝、トヨタ自動車(株)、日本石油(株)、日本電信電話(株)
東日本旅客鉄道(株)

○大競争時代における企業の社会的責任への取組み CS 活動事例集（2004年2月10日刊）

大阪ガス(株)、小田急電鉄(株)、関西電力(株)、キリンビール(株)、全日本空輸(株)、中部電力(株)、東京ガス(株)、東京電力(株)、(株)東芝、東北電力(株)、東日本電信電話(株)、東日本旅客鉄道(株)、トヨタ自動車(株)

○CSR 活動事例集 企業のCSR活動について（2008年12月19日刊）

大阪ガス(株)、関西電力(株)、九州電力(株)、四国電力(株)、新日本石油(株)、全日本空輸(株)、中国電力(株)、中部電力(株)、東京ガス(株)、東京電力(株)、(株)東芝、東北電力(株)、トヨタ自動車(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立製作所、(株)藤波タオールサービス、北陸電力(株)、北海道電力(株)、本田技研工業(株)、三菱電機(株)

○CSR 活動事例集 2010年版 (2010年12月24日刊)

大阪ガス(株)、小田急電鉄(株)、関西電力(株)、九州電力(株)、四国電力(株)、
JX 日鉱日石エネルギー(株)、全日本空輸(株)、中国電力(株)、中部電力(株)、
東京ガス(株)、東京電力(株)、(株)東芝、東北電力(株)、トヨタ自動車(株)、
東日本旅客鉄道(株)、(株)日立製作所、北陸電力(株)、北海道電力(株)、三菱電機(株)

○CSR 活動事例集 2014年版 (2014年3月22日刊)

大阪ガス(株)、小田急電鉄(株)、関西電力(株)、九州電力(株)、四国電力(株)、全日本空輸(株)、
中部電力(株)、東京ガス(株)、東京電力(株)、東北電力(株)、トヨタ自動車(株)、
東日本旅客鉄道(株)、(株)日立製作所、富士通(株)、北陸電力(株)、北海道電力(株)、
三菱自動車工業(株)、三菱電機(株)、JX 日鉱日石エネルギー(株)

(2) 「CSR 活動事例集 2017年版」発刊企画概要

現在次のとおり推進中である

○書籍名

「会社が継続発展するには(仮題)」

—社会に貢献しつつ発展するための手引書—

○内容

第1部 企業の部 (ご執筆企業様(4月24日現在))

(トヨタ自動車(株)・東日本旅客鉄道(株)・(株)日立製作所・三菱電機(株)
全日本空輸(株)・小田急電鉄(株)・日の丸交通(株)・北海道電力(株)
東北電力(株)・北陸電力(株)・中部電力(株)・東京電力(株)・関西電力(株)
中国電力(株)・四国電力(株)・九州電力(株)・東京ガス(株)・大阪ガス(株))

第2部 行政の部

第3部 労働組合の部…(UA ゼンセン)

第4部 学識者の部

○規格 AB版 モノクロ 300ページ前後

○発刊予定 2017年11月中旬

(3) 「タクシー展望」の発刊協力

(一社)東京ハイヤー・タクシー協会発刊にかかる本誌の編集発刊に
協力する